

# 2017年度 日本語教育学会秋季大会

主催：公益社団法人日本語教育学会 開催日：2017年11月25日(土)、26日(日) 会場：朱鷺メッセ（新潟県新潟市） 後援：新潟市教育委員会

**1. 開 会 式** 11月25日(土) 13:00～ 朱鷺メッセ 4階 国際会議室

**2. 特別プログラム(1日目)** 11月25日(土) 10:00～ 朱鷺メッセ 2階 メインホール B  
10:00～12:00 シンポジウム「ひと・まち・しごと」創生を支えることばの教育 一次世代を育てる日本語教育からの発信—  
パネリスト：クロエ・ヴィアート（順天堂大学）、佐々木香織（りてらこや新潟）、羽賀友信（長岡市国際交流センター）、藤原孝章（同志社女子大学）  
進行：足立祐子（新潟大学）  
コーディネート：公益社団法人日本語教育学会社会啓発委員会

**3. 発 表(1日目)** 11月25日(土) 14:00～ 朱鷺メッセ 2階 メインホール A, メインホール B, 4階 国際会議室

## ●パネルセッション (●14:00～15:30, ○15:45～17:15)

### 第1会場：4階 国際会議室

- 文章理解過程における日本語学習者の多義語の意味把握 一文脈の手がかりを用いて— 石黒圭（国立国語研究所），他3名
- 学部段階の日本語教育と理工系専門教育との効果的な連携— 数学教育・物理教育とのコラボ授業事例から— 太田亨（金沢大学），他4名

### 第2会場：2階 メインホール A

- 日本語教師教育・教師養成のエビデンス・エビデンスの多角的考察— 研究や実践を超越していく日本語教育者像— 嶋津百代（関西大学），他2名
- 日米豪韓における「会話データ分析」の研究成果と教育現場への活かし方を探る— 文献調査とインタビュー調査をもとに— 中井陽子（東京外国語大学），他3名

### 第3会場：2階 メインホール B

- 日本語教育における公共性の意味と課題 細川英雄（言語文化教育研究所），他3名
- 「地域日本語教師」養成のためのプログラム開発と講座実施から見えてきたこと— 「ともに社会をつくる仲間」という視点から— 嶋田和子（アクラス日本語教育研究所），他3名

**4. 懇 親 会(1日目)** 11月25日(土) 17:30～ 佐渡汽船ターミナル 5階 大ホール

**5. 発 表(2日目)** 11月26日(日) 9:30～ 朱鷺メッセ 2階 メインホール A, メインホール B, 3階 中会議室 301, 4階 国際会議室

## ●口頭発表 (●9:30～12:00, ○13:30～16:40)

### 第1会場：4階 国際会議室

- 地域日本語教室における外国人技能実習生の日本語習得の継続的動機づけ 小林正（京都外国語大学大学院生）
- 神奈川県の一都市における「特別的教育課程」編成の取り組み—DLAアセスメント導入による外国人児童生徒の言語能力把握— 宮崎幸江（上智大学短期大学部）
- 官学民の連携による「公共圏」の創造— 互恵的な親子参加型イベントの実践報告— 福村真紀子（早稲田大学大学院生），他1名
- 継続的に支援に参加した地域の母語支援者の学び— ライフストーリーによる事例研究— 高梨宏子（東海大学）
- 日本語教育学研究におけるインタビュー手法の諸相— 学会誌「日本語教育」から見たインタビュー手法の変遷と動向— 朴在恩（一橋大学大学院生）
- コトバと社会と人をつなぐための日本語教育— 演劇づくりを取り入れた実践を通して— 松永典子（九州大学）
- 同僚教師により行われた実践研究の場を教師個人はどのように意味づけたか 小畑美奈恵（早稲田大学大学院生）
- 日本文化理解を深めるプロジェクトの実践から見えたこと— タイ人日本語教師・日本人ボランティア双方の視点から— 中尾有岐（国際交流基金），他1名
- 教員養成学部における日本語教育の授業効果分析— リライト文の分析から— 大塚谷子（岐阜聖徳学園大学），他1名

### 第2会場：2階 メインホール A

- 日本語の教室における学習者の自発的情報提供— 第二言語としての日本語学習者の相互行為能力という視点から— 佐野真弓（関西学院大学大学院生）
- 日本語研究者・日本語教育関係者にとっての「現代日本社会の『多言語』化とは何か」— 「日本語研究・日本語教育文献データベース」を利用した経年的な考察— 岡田祥平（新潟大学）
- 社会問題の中から「発見する」問題とは— 日本語教育実践において考える— 新井久容（早稲田大学）
- 生態学的アプローチから見る学習環境生成過程— アフォードする関係性と参加— 齋藤智美（早稲田大学）
- 学習者のルーブリックの理解度と有効性に対する評価— レポート作成における教師の役割— 安田励子（早稲田大学），他3名
- IRT系モデルとReadabilityによる日本語作文の定量的分析— 一次教員による評価とコンピュータによる自動評価の比較— 伊集院郁子（東京外国語大学），他4名
- 反転授業に対する教師の評価と意識の変容 手塚まゆ子（関西大学），他1名
- 中国人日本語学習者が書いた意見文の構成の可視化— 一文レベルの機能・形式段落と段落間の関係を中心に— 肖宇彤（筑波大学大学院生）
- 韓国語を母語とする上級日本語学習者の読みの特徴— 日本語母語話者との比較によるケース・スタディー— 李榮（神田外語大学），他1名

### 第3会場：2階 メインホール B

- 中級・上級レベルの日本語学習者にとってのジテシマウ— 意見と説明を述べるテキストの用例を中心に— 山本晋也（一橋大学）
- 中国の初級日本語教科書における「ダロウ」の扱いについて— 日本語母語話者自然会話コーパスと比較して— 徐文輝（金沢大学大学院生）
- 敬語の丁寧語化現象について— 「てあげる」の新用法を中心に— 佐藤陽二（研究社）
- 「産出のための文法」から見たボイス表現— 受身、使役、自他の対応を中心に— 庵功雄（一橋大学）
- ベトナム語を母語とする日本語学習者による固有名詞の意味理解— 一文脈の手がかりに着目して— Nguyen Thi Thanh Thuy（国立国語研究所）
- コミュニケーション上のプレフダウンを引き起こす要因について— トルコ人日本語学習者の場合— Seda DEDEOGLU（名古屋外国語大学大学院生）
- メタ言語表現の機能は講義理解の手がかりとなり得るか— ノートテイキングと理解テストの結果から— 毛利貴美（早稲田大学），他2名

### 第4会場：3階 中会議室 301

- 地方私立大学における留学生の就労支援を考える— キャリア形成プロセスの考察から— 本本晋也（徳山大学）
- ビジネス日本語教育に対するグローバル社会のインパクト— ビジネス日本語の定義の再考からの一考— 粟飯原志直（ベトナム・日越大学）
- 日本語学学生の学習動機と自己形成の関係— 混合研究方法を用いて— 岡葉子（東京外国語大学）
- 首都圏に在住する語学教師の日本語学習動機に関する一考察— 英語母語話者と非英語母語話者の比較を中心に— 神定いずみ（目白大学大学院修了生）
- 基本形容詞の類義語辞書モデルの検討— 「小さい」を例として— 高原真理（岡山大学）
- 初級日本語教科書での副詞提示について— 日本語学習者会話コーパスにおける副詞の使用実態から— 本廣田鶴子（日本大学大学院研究生）
- 中上級日本語教科書に現れた「いいえ」系応答詞— 初級日本語教科書における扱い、自然会話と比較して— 野口美美（お茶の水女子大学大学院生）
- 地域日本語ボランティアに関する一考察— 「国際交流のための草の根カウンセラー」として備えるには— 中井延美（明海大学）

## ●ポスター発表 会場：2階 中会議室 201

### ●10:50～12:20

- 人工知能の仕組みを利用した学習者作文評価システム「JWriter」— I-JAS を利用した試み— 李在鎬（早稲田大学），他2名
- 口頭運用能力向上をめざす教室活動— 地域の日本語教室の実践記録から— 足立祐子（新潟大学），他1名
- ディベートを用いた技能統合的ライティングの実践と課題 小野塚若菜（ベネッセ教育総合研究所）
- すぐに日本語を使うことが必要な初級学習者を教える教師は、どのような工夫をしているか— 公開されている実践の報告から— 上原由美子（国際交流基金）
- 日本語学習者の学習継続決定の要因— 地域多読活動の観察記録とインタビューより— 門井美奈子（早稲田大学大学院生），他1名
- アカデミックな場面におけるプレゼンテーションを学習するための映像教材の開発 仁科浩美（山形大学）
- 交換留学生の講義理解に関する一考察— M-GTA を用いた理解構築のプロセスの分析から— 中井好男（同志社大学），他2名
- アカデミック・ライティングにおける論証技術習得の課題 中村かおり（拓殖大学），他2名
- 一般映像作品の日本語教育素材としての難易度を決定する要因の分析— アニメーション3作品の視聴実験による量的・質的分析をもとに— 日井直也（デジタルハリウッド大学），他1名
- 引用を学ぶ基礎段階での学部留学生への指導— 学術記事からの選り型授業設計の提案— 大島弥生（東京海洋大学）
- 間違えやすい漢字の誤用訂正システム 小川羅一朗（長岡技術科学大学学生），他1名

### ●12:40～14:10

- 中・高学齢期の JSL 生徒を対象にした教科書につなぐための日本語総合教科書の開発 志村ゆかり（東京経済大学），他5名
- 韓国語の品詞接続による「ゆれ」— 助詞 e (에)・eul (을) に注目して— 梅林佑美（京都外国語大学大学院生）
- 中国人日本語ナ、ラ、タ、ダ行音混同の研究— 福州方言話者を対象として— 吳琪（神戸大学大学院生）
- 日中対照漢字語データベースの開発と応用 松下達彦（東京大学），他3名
- シャドーイング時の音韻・意味処理に及ぼす作動記憶容量と材料要因の影響— 2文シャドーイング課題を用いた実験的検討— 韓暁（中国・東南大学），他1名
- 日本語母語話者と日本語学習者にとってわかりやすいカタカナ語の言い換え表現とその評価 小野正樹（筑波大学），他3名
- 中国語を母語とする上級日本語学習者における聴解時のメモ行為の効果— 作動記憶容量とメモの使用言語を操作した実験的検討— 徐暢（広島大学大学院生），他1名
- 中等教育日本語初學者向けアプリ『エリントと挑戦！にほんごテスト』の開発 夷石寿賢（国際交流基金）
- 自然科学系非漢字圏初級日本語学習者の漢字学習過程の考察— 正誤判断時の自発的空書と眼球運動の観点から— 大北葉子（順天堂大学）
- 日中対照漢字二文字熟語データベースの構築と語彙特性の分析に関する研究 小森和子（明治大学），他3名
- ティーチャー・トークにおける「まあ」の使用— 教科書発話には見られない日本語教師の不規則発話— 藤田裕一郎（朝日大学），他1名

### ●14:30～16:00

- B2（上級）レベルの課題遂行をめざした教材開発— 新たな教材像模索の試み— 大船さとと（国際交流基金），他2名
- 「移動・越境・つながり」を考える— 海外の日本語教育実習生の事例から— トムソン木下千尋（豪州・ニューサウスウェールズ大学），他1名
- 依頼メールの社会言語能力に「構成」が関わるか— 日本人事務職員への調査を通して— 坂本勝信（常葉大学），他1名
- 動機づけを目的とした「アニメ・マンガの日本語」オンラインコースの制作と運用 武田素子（国際交流基金），他2名
- 地域の日本語教室における支援者の意識— 香川県での日本語学習者と支援者への調査から— 山下直子（香川大学），他1名
- 海外日本語教育普及政策の評価に関する実態調査— 外務省に焦点をあてて— 坪田珠里（京都外国語大学大学院生）
- 多読教材の文章難易度に関する考察— 段階別多読用教材と旧日本語能力試験の統計的な対応づけの試み— 前川絃子（早稲田大学大学院生），他1名
- 留学生のための基礎的専門用語の分野比較— 経済・物理・化学・数学を対象に— 小宮千鶴子（早稲田大学）
- 「公共性」を生み出す言語教育とは何か— 二つの教育実践の営みから— 佐藤正則（山形美容芸術短期大学），他3名
- 学習者コーパスの構築に関するケーススタディー— 調査実施とデータ整備のプロセスの問題点— 迫田久美子（広島大学），他3名
- 高等教育機関における日本語初級前半コースのあり方を探る— インタビュー調査結果からの一考察— 佐野香織（早稲田大学），他3名

## ◆同時開催のイベント情報

- ※詳細は学会ウェブサイトをご参照ください。
- わかば・コンシェルジュ [2階 ホワイエ] (11月25日 12:00～14:45 / 26日 9:00～13:30)
- わかばさんいらっしゃい [2階 小会議室 203-204] (11月25日 12:10～12:55)
- 交流ひろば [2階 中会議室 201] (11月25日 13:45～15:15 / 15:30～17:00) ※詳細は下記参照
- ぷらさ da わかば [2階 小会議室 203-204] (11月26日 12:10～13:20)

- 地域発信企画「多文化共生のための学びと交流の拠点づくり—一次世代を育てる日本語教育—」 [2階 小会議室 202, ホワイエ] (11月26日 12:10～13:20)
- 研究倫理セミナー「研究とその指導に必須の注意事項」 [4階 国際会議室] (11月26日 12:10～12:50)

## ●交流ひろば 会場：2階 中会議室 201

### ●13:45～15:15

- 介護福祉士候補者のための介護専門用語学習支援ウェブサイト「かいこのご」! 中川健司（横浜国立大学），他2名
- 学習者ペアによる再話活動 小河原義朗（東北大学）
- 電子教材作成アプリ「Finger Board」の使い方とクラスでの使用例の紹介 久我 瞳（名古屋外国語大学日本語インスティテュート）
- 日本語教師発話コーパスの作成— 大規模化に向けて— 藤田裕一郎（朝日大学），他1名
- 教員養成大学のグローバル人材育成における留学生教育のあり方— 教員研修留学生日本語教育プログラムでの地域貢献の実践から— 和泉元千春（奈良教育大学）
- 研究室コミュニケーションのための入門期日本語教育用教材の開発 山路奈保子（室蘭工業大学），他1名
- 学部留学生対象の日本語科目と初年次教育科目— ライティング教育をどうするか— 中島祥子（鹿児島大学）

### ●15:30～17:00

- オノマトペの学習を支援するeラーニング教材の開発— プレンディッドラーニングによる学習を想定して— 竜野征一郎（北海学園大学大学院生），他1名
- 学習目標の意識化を目的とした自己紹介活動— 中上級を対象とした会話クラスにおいて— 衣川隆生（名古屋大学）
- 初級日本語学習用 m-learning アプリの開発 黒田史彦（首都大学東京），他1名
- オンラインでつながる日本語教師の輪 大隅紀子（東京大学），他1名
- 漫画を使った研修の可能性— 日本語教室の撮影データに基づく教材の活用— 金田智子（学習院大学），他3名
- 短期集中型初期適応クラス「サバイバルコース」の実践とその展開 高橋志野（愛媛大学）

●大会参加費：【事前登録】 会員（学生以外）3,500円、会員（学生証をお持ちの方）2,000円、会員でない方 5,000円 / 【当日受付】一律 5,000円 懇親会費：【事前登録】一律 3,000円  
●事前登録：学会ウェブサイトのマイページで登録を行ってください（2017年10月16日～11月15日）。  
●問い合わせ先：公益社団法人日本語教育学会 〒101-0065 東京都千代田区西神田 2-4-1 東方学会新館 2F TEL: 03-3262-4291 (当日連絡先: 090-1999-3315) http://www.nkg.or.jp

< 予告 > ●2018年度日本語教育学会春季大会：2018年5月26日(土)、5月27日(日) 東京外国語大学(東京都)